

TTC ゆった〜り山行実施記録表 2019年5月7日 報告者:Y.M

山行名	神武寺・二子山(208m)ハイキング [神奈川県逗子市・葉山市]		
実施日	令和元年5月06日(月/休) 日帰 公共交通機関利用		
天候/参加人員	天候:曇のち晴、レベル:★☆☆ 参加者:申込10名/実施7名(男5名/女2名)		
パーティスタッフ	省略		
参加メンバ	省略		
費用(交通費)	約1,524円(本厚木駅からの往復交通費(各自PASMO支払い))		
一人:1,524円(本厚木起点)	往路:本厚木-海老名-横浜-京急神武寺:750円 帰路:JR逗子-横浜-海老名-本厚木:774円		
	歩行時間	休憩時間	行動時間
下見山行	4:22	2:33	6:55
計画	5:30	2:25	7:55
実行	4:08	2:00	6:08

- ・歩行距離:~11.9km
- ・累積標高差 上り457m/下り460m
- ・歩行数;~26,000歩

実行コースタイム記録

(集合4名)	相鉄線	京急線	(集合3名) 0:18	0:22	0:03	(ナンジャモンジャの木) 0:24
本厚木==海老名==横浜==金沢文庫==京急神武寺	---逗子老人ホームせせらぎ---表参道分岐---神武寺薬師堂---					
7:41	7:46/7:53	8:28/8:38	8:54/8:58	9:06	9:27	9:45
						10:07
						10:10/10:30
0:04	0:37	二子山山頂1.5km)	0:42(昼食)	0:24(靴洗いやトイレ/休憩)	0:24(ワタクリーム/休憩)	0:27
東逗子駅---二子山登山口---展望台分岐	---二子山山頂---南郷上の山公園---直売所HAYAMA---長柄交差点バス停					
10:54	10:58	11:35/11:42	12:24/13:06	13:30/14:00	14:24/14:40	15:07/15:12
0:23	横須賀線	相鉄線				
---JR逗子駅===横浜===海老名===本厚木						
15:35/15:51	16:25/16:35	16:58/17:01	17:07着			

(注記) 5/8午後、逗子市観光産業課の担当者から、対応が不適切でしたとの謝罪の電話がありました。

コースの概要、特記事項、反省事項等

逗子市発行の「逗子ウォーキング・ハイキングガイド」なるパンフレットを入手。この中に紹介されていた神武寺という古刹の境内にかながわの名木100選に選定されている樹齢400年超のナンジャモンジャの巨樹とワカコの群生地があるとの記述に興味を持ち、逗子市観光産業課に電話して確認したところ、このナンジャモンジャの花は4月下旬~5月中旬頃に見頃を迎えるという情報を得たので、ナンジャモンジャの和名とされるヒツパグであると確信し、この珍しい花にフォーカスした5/6実施ゆった〜り山行としてエントリーし、1月にはシブメツバ4名で現地を下見し、逗子市に再確認の電話をするなどの念を入れた調査をして実施計画書を作成した。

5/6朝、京急神武寺駅に7名が集合。沢沿いの裏参道を辿り標高差約80m登って、真っ白な花に覆われたナンジャモンジャの巨木目指して、神武寺薬師堂境内に一直線。ととところが...お目当ての巨木は高く大きく聳えるばかりで、花の気配もないではないか!予想もしていなかった事態に下見をしたCLとSLはガクゼン。花を楽しみに登ってきたメバにただ頭を下げるのみ。続々登ってくるハイカムも樹の周りを加減するばかりだ。朽ちかけた神奈川県教育委員会の説明板にも納得できる説明はない。庫裏入口付近に自生するワカコの葉は確認できたが花は発見できなかった。花が咲くのはあと2-3週間後のようだ。早々に神武寺を後にし、JR東逗子先の二子山登山口に向かって、表参道を下山にかかった。表参道入口付近の民家の住民の方に事情を話して、ナンジャモンジャの花の件を尋ねてみたところ、これまでに花の咲いたところを見た記憶がないとのこと。これदनにか根本的な間違い、あるいは情報に齟齬があったに違いないと確信した。

二子山登山コースは新緑が鮮やかな森の中に続く気持ちの良いトレイルではあるが、今朝まで降り続いていた雨で、至る所水溜りとドロドロ滑る登山道に四苦八苦しながら、1時間20分を要して、標高208mの二子山山頂に12時半頃ようやく到着!頂上の展望台に上ると、緑に覆われた山並みの先に東京湾が広がり、左に横浜ランドマークタワーが、右に東京スカイツリーが霞んで見えた。青空が覗き、陽が射す中、頂上の草むらの一郭に陣取り、少し遅めの昼食を楽しんでから、南郷上の山公園に下山。泥で汚れた靴を洗って一休み後、バスに乗らずに、徒歩で葉山から逗子の市街を歩いて3:35pm頃ゴールのJR逗子駅に到着・解散。

◆花に出会えなかった原因説明と対応:帰宅後、NETで徹底的に齟齬の原因について調査して判明した事実の概要を述べる。ナンジャモンジャとは、必ずしもヒツパグだけの愛称ではなく、見慣れない立派な植物、怪木や珍木につけられた愛称で、ヒツパグ以外の植物に名付けられた事例が全国7例あり、うち神奈川県に以下の3例ある。①横浜戸塚の長光寺(ワカコ、かながわ名木百選)、②神武寺(ヒツパグ、同左)、③大和市深見神社(ヒツパグ、市の天然記念物)。ヒツパグとは、平賀源内がオリーブ油の採れる木(オリーブ樹)と間違えヒツパグ(ヒツパグの樹の意)と名付けた(薩摩では別称モクシ/ヒツパグ属ヒツパグ科の常緑高木)。ヒツパグは千葉県以西の沿岸部に自生、神奈川県では、大磯に樹齢400年超の巨木(町天然記念物)、小田原城山に巨木あり、6-7月に目立たない花を咲かせるという。逗子市の関係部署(観光産業課と観光協会)に電話してこの事実を知らせたところ、内容を把握できている担当者はいないので、今後不正確な情報を発信しないよう、市発行のパンフレットやホームページ、現地説明板の記載内容の見直しを図って、このような誤解や混乱を起こさないよう善処をお願いした。本説明をもってお詫びに代えさせていただきます。